



2019年 11月発行

有田市社会福祉協議会
ホームページはこちら



ありだし社協だより

小学校6年生児童代表が
毎月将来の夢を発信！



10年後、成長した姿を
地域の皆さんに発信します！

保田小学校6年生

「将来の夢」



次号は田鶴・糸我小学校から「夢」発信！

社協だよりは、「赤い羽根共同募金」配分金の一部で発行させていただいています。

第7回「育てよう!福祉の芽」

小・中学生作文コンクール

授賞作品 決定!

応募総数三六二作品の中から、選考委員会により各授賞作品が決定しました。次にご紹介します。

優秀賞

〔小学校中学年の部〕

「この人はだれ」

有田市立保田小学校 4年

寺坂 彩花 さん



わたしのそうそ母は、今ろう人ホームでくらししています。わたしはたまにそ母と母について行って、そうそ母に会いに行きます。いつも行くとそ母は母の事を指さしてそうそ母に

「この人だれよ?」

と言います。するとそうそ母は母の事が分からなくてちがう人の名前を言ったり、首をかしげたりします。

わたしのそうそ母は「にん知しよう」です。私が小さいころはまだしっかりして家で家にも遊びに来てくれてオムツをかえ

てくれたり、面どうをみてくれたりしていたのですがそうそ父がなくなつてからだんだんと物わすれがひどくなり家でそうそ母の面どうをみるのが大へんになったのでろう人ホームに入つてもらふことになったそうです。

わたしは家族とはなれてろう人ホームでくらすそうそ母はさみしくないのかなと思つていたけど、ろう人ホームのしよく員さんは、とても親切にしてくれると聞いて安心しました。

ろう人ホームに入ったばかりのころは、まだ自分の足で立って歩いていたので今ではもう足が弱くなつて車イスでの生活をしています。めつたに行かないので前は出来ていた事が次に行くとき出来なくなつていくことがあつて何だかへんな気持ちになります。話をしていても何回も同じ事を聞いてくるし、毎回行くたびに名前を言わないとわすれているから母がそうそ母の所に行くと言つても正直行きたくないと思つてしまいます。

わたしはそうそ母の事を大きいばあちゃんと呼んでいるので母に

「何で大きいばあちゃんと言にならないし、いつも同じ事を何回も聞くのに会いに行くん? 行つても楽しくない」と言つたことがあります。その時母は

「会話にならなくても何回も同じ事を聞かれてもお母さんの事わすれられていてもお母さんの事を大切にしてくれた思い出がたくさんあるから大きいばあちゃんが生きている間はなるべく会いに行つて顔

を見せてあげたい。」と言いました。

わたしはそれを聞いてからはろう人ホームに行つても積極的に自分から話かけて何回も同じことを聞かれてもいやな顔をせずには答えるようになりました。

わたしは父母やそ父母に助けてもらつて生活しています。自分で出来ることはしますが、出来ないことの方が多いです。そうそ母も昔はそ母のお世話をして助けてきたから、今は助けてもらえらんとおもいます。わたしもしよう来、父母やそ父母がこまつている事があつたら助けてあげられるような大人になりたいです。

〔小学校高学年の部〕

「よいよい有田市のため」

有田市立宮原小学校 6年

高垣 未翔 さん



私は、学校へ歩いて登校している。その時たくさんさんの車とすれ違ふ。それらの車の中には高齢の方が運転している車もある。最近、テレビや新聞などで、高齢ドライバーの事故が相次いでいると報道されている。高齢ドライバーの多いこの有田市でも、いつこのような事故が起きるか分からない。

私の住んでいる地域では、買い物に行くのも、病院に通院するのも、車が必要不可欠だ。今、運転免許証を返納する高齢者が増えてきているとニュースで知った。だが、運転免許証を返納した高齢者がいたとしても、これから先、その高齢者の方は、この有田市で、よりよい生活を送ることが出来るのだろうか。もし、私の祖母が、今日、運転免許証を返納したとする。では明日からの祖母の買い物や通院は、誰が連れて行つてくれるのだろうか。私は、誰が連れて行つてくれるのだろうか。私が高齢者宅訪問でうかがつた高齢者の方は、買い物や通院などは、娘に車で送りむかえをしてもらつていられるとお話ししてくださつていたが、私の家では、それは難しい。私の両親は、共働きで、毎日送りむかえをするには、とてもできないからだ。

そのようなやんでいたところ、父が、有田市にはデマンドバスがあると知つてくれた。確かに有田市の各地をデマンドバスが回つており、利用すると、とても便利だ。しかし、残念ながら、デマンドバスは運行数が限られている。では、このデマンドバス以外にも良い方法はないだろうか。

そこで、私は、次のような方法を思いついた。それは、高齢者の方を買い物に連れていくボランティアだ。例えば、高齢者の方が買い物などに行きたい時にボランティアに電話をすると連れて行つてくれるしくみがあれば、便利だと思ふ。他にも、代わりに買い物に行つてくれるボランティアもあれば、より、高齢者の方は、気楽に生活することが出来ると思ふ。また、ボラン

ティアだけでなく、地域の人達で高齢者の方々を支える気持ちを持つことも大切だと思ふ。

このような、支え合いをキーワードとしてよりよい有田市を作っていくことはできないだろうか。私は、できると強く信じている。高齢者宅訪問やなごみ訪問などで、高齢者の方々は笑顔でむかえてくれた。その笑顔を見て私は、自分にできることはやろうと思つた。そんな思いをみんなが持つてば、さらにより良い有田市になると思ふ。だからみんなで支え合つていくことが可能だと思ふ。

より良い有田市をつくつていこうと思ふ。

〔中学生の部〕

「高齢化社会について考える」

有田市立箕島中学校 3年

みやい はるな
宮井 遥菜 さん



日本では、高齢化が急激に進んでいて、それに伴つていろいろな問題が起つています。そんな中で、最近、私が高齢化問題について考えるきっかけになった出来事がありました。

それは、私の住んでいる地域でお年寄りが自宅の部屋で倒れているのを、たま

たま食事を届けに来た人が発見して救急車を呼んでくれたと言う話で、見つかるのがもう少し遅かつたら孤独死していたかも知れなかつたそうです。

私は以前、近所に住んでいる人から異臭がすると通報があつたことがきっかけで、高齢者が孤独死していたことが発覚したというニュースを見たことがありましたが、遠くの都会での出来事だったので、私には全く関係のない話だと思つていました。

しかし、身近にも孤独死が起きるかもしれないことを知つて私はとても驚きました。そして、どうしてそのようなことが起きるのだろうか調べてみることにしました。

和歌山県は、全国で八番目に高齢化が進んでいて、住んでいる人の十人中三人が六十五歳以上の高齢者になつています。そして、高齢者のうち二割以上の人がひとり暮らしをしています。人口の多い市や町がある海岸から離れた山奥では、特に高齢化が進んでいて、住民の半分以上が高齢者の町もあるそうです。

私は、孤独死は都会だけの問題ではなく、私の住んでいる地域でも起きる可能性のある問題だということが分かつて心配になりました。

高齢者が誰にも気づかれずに病気がどで亡くなつてしまうのは、とても悲しいことだし、もし自分がその高齢者の立場だつたらどんなに心細くて怖い思いをするのか想像もできません。

ひとり暮らしのお年寄りの多くは、病気で寝たきりになったり、生活に困つたりすることなく、近所の人たちと一緒に地域の活動にも参加していますが、孤独死した人は病気になつたり、一緒に暮らしていた家族が亡くなつたことなどが原因で、地域の活動に参加しなくなつたり、近所付き合いもしなくなつてしまつた人が多いそうです。

孤独死を少しでも減らすためには、地域の人たちとつながりを持つことが大切だと思ふます。日頃から積極的に地域の活動に参加している人なら、少しでも変わったことがあれば、地域の人たちに気付けてもらえらると思ふます。

もし、地域の活動に参加しなくなつた人がいれば、周りの人が訪問していくといいと思ふます。ひとり暮らしの高齢者がいるかどうかアンケート等で調査すれば、訪問が必要な人がどこにいるのか、わかりやすくなると思ふます。

実際に地域のボランティアで、ひとり暮らしの人を見守つたり、必要に応じて訪問したりする「地域見守り協力員」という人がいるそうです。県内で約二千人が活動しているそうです。

また、ポストに郵便物や新聞がたまつていないかチェックすることも孤独死を防ぐ方法になるので、郵便局や新聞配達、宅配便の人たちが高齢者等の「異変のサイン」に気付いたときは、市町村の窓口に連絡する見守り活動も行なわれているそうです。このような取り組みで一人

でも多くの孤独死を防ぐことができればいいと思ふます。

日本では、これからも高齢化が進んでいくので、孤独死はどんな人にもありえる問題だと思ふます。だからこそ、私たち一人一人がこの問題と向き合つて行かなければならないと思ふます。

今、私たちが出来ることを考えると、近所にひとり暮らしの方がいるかどうか気にかける事だと思ふます。毎朝、通学途中に出会う人に挨拶をして顔見知りになれば、その人がどこに住んでいて、どのように暮らしているのか関心を持つことにならるので、私も「おはようございます」「こんにちは」と積極的に声をかけることから始めたいと思ふます。

芽ばえ賞

箕島小学校 6年 伊藤 宥征さん

「理解し合う心の大切さ」

保田小学校 6年 佐々木 泰誠さん

「おばあちゃんの障害者手帳」

箕島中学校 2年 由良 沙優さん

「差別の無い世の中へ」

芽ばえ賞を含む6作品の全文は、本会ホームページにも掲載しています。

家族介護教室 特別企画

「知ってトクする健康知識」

今年も恒例の「知ってトクする健康知識」を開催します。ドクターによる普段聴けない体調についてのお話や血管年齢測定、薬剤師さんによるお薬のワンポイント講座等盛りだくさんの内容となっています。是非この機会にご参加いただき、みなさんの健康にお役立て下さい。

日時：令和元年 11 月 30 日（土）
午後 2 時～午後 4 時

場所：有田市福祉館なごみ
2 階研修室

講座メニュー

1. 薬剤師さんの「災害時お薬ワンポイント講座」
2. 特別講演
「耳鼻咽喉科のしごと・めまいのメカニズム」
九鬼クリニック耳鼻咽喉科 九鬼 清典 院長
3. 機械による血管年齢・心臓への負担度測定
(先着順)
4. お薬、介護に関する相談コーナー
(お薬手帳をご持参ください)

多数の皆様のご参加を お待ちしています！

～お願い～ 駐車スペースが少ないため公共交通機関のご利用や、乗り合わせ等へのご協力をお願いします。



生活支援コーディネーター レポート 2

「この家、住んでるんよな？」
ふと感じた心配な思いから見守り訪問へ

港地区の新しい取り組みをご紹介します。

港老人クラブの会長は、地区内のひとり暮らしのお宅で、庭先が草で覆われているのを見て、「住んでるはずなのにこんなになっておかしいな」と気になったそうです。そんな心配な思いをするのなら、自分たちで見守りをしていこうと考え、十ある単位老人クラブの会長たちに相談されました。

どの会長も熱心で、ひとり暮らしの方がどれだけおられるのかをまず調べ、その数の多さから本当に見守りが必要とされている方を考えました。話し合いの結果、市内には身内のいない方という条件に絞ってみようとなりました。

生活支援コーディネーターもその場に同席しましたが、「自分たちはそれぞれの事情も察することができるとは、ある程度の条件は決めても、気になる人は各自追加して見守りをしよう。」「何より、これは続けていくことを目標に無理せずがんばろう」という言葉があらこちから出されてきました。

9月から月に2回、自分の地区内の会員宅を訪問しています。訪問から見えた生活課題は行政や社協、民生委員と共有し、地域の課題として考えていきます。

福祉用具・車いす無料レンタルのご案内

福祉用具・車いすを無料で貸し出しています。
購入前の試用、旅行や通院、けがなど一時的に必要な場合にご利用ください。

貸出品目

車いす（自走用・介助用）、浴槽用手すり
バスボード、シャワーチェア、歩行器
四点杖、ポータブルトイレ など

貸出期間については

ご相談ください。

まずは、お電話でお問い合わせください。

有田市社会福祉協議会 88-2750

おめでとうございます！

和歌山県身体障害者連盟会長表彰

礎賞

福田 資弘様

白菊賞

橋爪 雅代様

和歌山県社会福祉協議会会長表彰

民生委員・児童委員功労者

富山 晴美様

社会福祉協議会役員、職員功労者

宮本 美喜様